

# きずな

## 小牧市民病院の理念

- 1 安全で質の高い急性期医療を行います
- 2 恕(じょ)の心で患者さんに寄り添う病院を目指します
- 3 医療を通じて、安心して暮らせる地域の実現に貢献します



年と一歳に、育っていききたい。  
**Komaki**

## 特集 ガンマナイフ治療

**【健康教室】** 鼻出血 ～たかが鼻血、されど鼻血～

**【各科だより】** 放射線科 MRIとは

**【職場紹介】** 年に一度は体のチェックを！

**【意見箱から】** 「みんなのトイレ」について

### お知らせ

- 病院案内図
- 外来案内

過去の「きずな」はコチラ



# 小牧市民病院のガンマナイフ治療 ～新ユニット「Esprit」の導入～

## ガンマナイフ治療とは

ガンマナイフは、頭部の疾患に対してメスを使わずに高精度の放射線を照射する治療法です。通常の外科手術とは異なり、頭蓋骨を開かずに治療ができるため、患者様の負担が少なく、安全性の高い治療法として広く用いられています。

## 対象となる疾患

ガンマナイフは、さまざまな脳疾患に対して効果を発揮します。主な対象疾患は以下のとおりです。

- 脳腫瘍（転移性脳腫瘍、聴神経腫瘍、髄膜腫、下垂体腺腫など）
- 脳血管疾患（脳動静脈奇形など）
- 機能的疾患（三叉神経痛など）

## 当院のガンマナイフ治療の歴史

小牧市民病院では、1991年5月にガンマナイフ

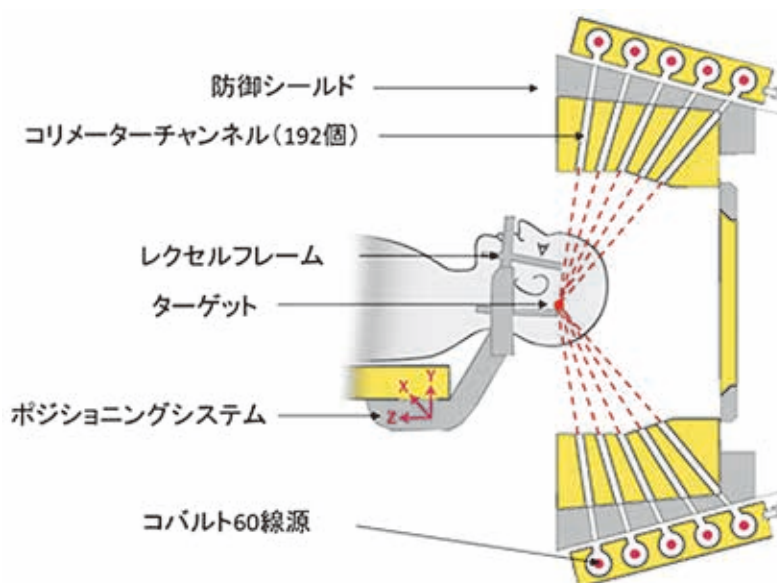
を導入し、日本では東京大学に続く2番目の施設として治療を開始しました。それ以来、長年にわたり多くの患者さんにガンマナイフ治療を提供し、2025年で導入から35年目を迎えます。さらに、当院でガンマナイフ治療を受けた患者さんが2025年6月18日で累計10,000人に到達しました。

## 新ユニット「Esprit」の特徴

2025年3月31日より、当院では最新型のガンマナイフ「Esprit（エスプリ）」を導入しました。今回は従来ユニット「ICON（アイコン）」からのアップグレードになります。

Espritは以下のような特徴を持ちます。

- **治療精度の向上**：高精度の照射が可能になり、より安全な治療が実現
- **治療時間の短縮**：従来よりも短時間で治療が完了し、患者様の負担が軽減
- **固定方法の選択が可能**：従来のフレーム固定に加え、マスク固定による治療も可能



## 入院・通院での治療について

ガンマナイフ治療は、疾患の状態や固定方法によって入院か通院かを選択できます。

- **フレーム固定 (従来の方法)**：頭部に専用のフレームを装着し、より高精度な単回照射を行います。より精度が必要とされる小さなターゲットの疾患に適用されます。この場合、2泊3日の入院が必要です。
- **マスク固定 (ICONおよびEspritで可能)**：専用のマスクで頭部を固定し、単回照射または分割照射を行います。特に大きな転移性脳腫瘍の場合に良い適応となります。この場合、通院での治療が

可能となり、患者さんの負担が大幅に軽減されます。外来通院で治療を受ける場合には化学療法と同時進行での治療ができることも大きなメリットです。

## まとめ

ガンマナイフは、開頭手術をせずに治療できる安全性の高い放射線治療です。

ガンマナイフ治療についてご不明な点があれば、ぜひ当院の医師やスタッフにご相談ください。安心して治療を受けていただけるよう、丁寧にサポートいたします。



脳内疾患のための高精度定位放射線治療装置  
[エレクタ エスプリ]

## Elekta Esprit

Leksell Gamma Knife



ガンマナイフは重要な組織が密集している頭蓋内でも、照射誤差 0.5mm 以下という非常に高い精度で病変を治療するため、周りの正常な組織への被曝を最小限に抑えることができます。

また、手術が難しい脳深部にある病変の治療にも使われます。

エレクタ エスプリは、頭部固定具として、従来のフレームの他、マスクシステムを導入することにより、大きな腫瘍に対する分割照射が可能になりました。



小牧市民病院  
Komaki City Hospital



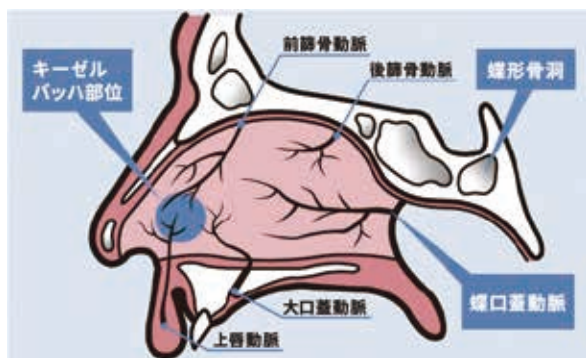
# 鼻出血 ～たかが鼻血、されど鼻血～

耳鼻いんこう科 岡崎 由利子

鼻出血（鼻血）は、老若男女だれにでも起こり得る身近なものかと思います。すぐに止まることが多いですが、なかなか止まらなかったり繰り返したりする場合には、病気が隠れている可能性もあります。鼻出血の原因やご自身でできる止め方のポイントについてご紹介します。

## 鼻出血の起こりやすい部位

鼻の穴を左右に分けている壁＝鼻中隔の入り口付近のキーゼルバッハ部位からの出血が最も多いです。このキーゼルバッハ部位には毛細血管が集まっており、また鼻の穴から1～2センチのところで外からの刺激を受けやすい場所なのです。ちなみに、このキーゼルバッハ部位という名前はドイツの耳鼻科医・解剖学者ヴィルヘルム・キーゼルバッハ氏に由来しています。



## 鼻出血の原因

**外傷**…鼻をぶつける、鼻の穴に指を入れるなどで粘膜が傷つくと血が出ます。

**鼻風邪、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎**…鼻の粘膜に炎症があると出血しやすいです。

**高血圧**…血圧が高いと鼻の血管も破れやすく、また出血した際に勢いがあり止まりにくくなります。

**糖尿病**…血糖値が高い状態が続くと血管がもろくなる可能性があります。

**肝臓や血液の疾患**…血を止めるときに働く「凝固因子」が、肝臓でうまく作れない場合は鼻血が止まりにくくなります。また血小板が少ない方や、凝固因子が生まれつき欠損している血友病の方は血が止まりにくい傾向があります。

**薬**…心筋梗塞や不整脈などの治療のため、血液をさらさらにする薬を飲んでいる場合、鼻血が止まりにくくなります。

**腫瘍**…稀に鼻や副鼻腔にできたできものから出血している場合もあります。

## 応急処置のポイント

まずは落ち着いて、椅子に座り、左右の小鼻の柔らかいところを親指と人差し指でつまんでややうつむき加減になり10分～15分圧迫しましょう。お子さんの場合は保護者の方がつまんであげてください。喉に血が流れてくる場合は飲み込まず洗面器などに吐き出します。ティッシュをご自身で鼻の穴に詰めることはあまり推奨されません。かえって鼻の粘膜を傷つけてしまったり鼻の奥に入り込んで取れなくなったりする危険性があるからです。



## こんな場合は受診を

上記の応急処置を行っても止まらない、または何度も繰り返す等あれば一度耳鼻いんこう科を受診しましょう。

## MRIとは

MRIとは強い磁場と電磁波を用いて体の中を撮影する機器で、日本語では磁気共鳴画像と呼ばれています。人間の体の大部分は水分でできており、水素原子が体のどこにでも存在しています。体の細胞に含まれる水素原子を、強い磁石を使って反応させることによって画像を作ることができます。



## 大きな音をする理由は？

MRI検査を受けると「ガガガ」「カンカン」といった大きな音が鳴り響きます。この音には重要な理由があり、それを知っていただくことで検査への不安が軽減されるかもしれません。

MRI装置は、傾斜磁場コイルとよばれる特殊なコイルに電流を流して磁場を発生させることで撮像します。このとき、大きな力が働き装置内部の部品が振動することで、大きな音が鳴ります。これはスピ

ーカーの音の発生と同じ原理です。非常に大きな音であり、不快に思われる方も多いと思いますが、装置が正常に動いている証拠であり、体の内部を調べている音と考えると、不安は和らぐかもしれません。また、当院では、耳栓を用いたりヘッドホンを用いて音楽を流したりすることによって、できる限り患者さんの不安が少なくなるよう対策を行っております。



## CTとの違いについて

患者さんから「CTとMRIは何が違うの？」という声をよくお聞きします。CTもMRIも、大きな筒状の機器に寝た状態で入る検査であり、混同されている方も多いと思います。CTとMRIの違いを簡単に比較してみます。

MRIは磁場を用いた検査であり、X線被ばくがないため、子どもでも安心して受けられます。また、色の濃淡（コントラスト）がわかりやすいため、病変がより明確に見られます。

しかし、CTのように1度に広範囲の撮影をすることが難しいことや、検査時間が長いこと、磁場に反応する金属などが体内にある場合、検査を受けられないなどの制限もあります。

どちらの検査が優れているということはなく、それぞれに得意不得意があるため、部位や症状などによって検査を選択しています。

健診センターでは病院併設の利点を生かし、院内の放射線科・臨床検査科・栄養科・各診療科と協力しながら、正確な健診結果の提供に努めています。

## 【提供するサービス】

健診センターでは、以下のような各種健康診断を実施しています。

- 定期健康診断
- 人間ドック
- がん検診（肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん等）
- 生活習慣病予防健診、特定健診
- 動脈硬化検診
- 脳ドック等

## ＜快適な受診環境＞

受診者の皆様が快適に検査を受けられるよう、清潔で落ち着いた環境を整えています。待合室や検査室は広々としており、プライバシーにも配慮されています。



## ＜一次予防への取り組み＞

検査で病気が発見されない場合でも、禁煙や食事、運動など生活習慣の改善に関する保健指導・栄養指導を行うことで、受診者の健康状態を向上させます。

## ＜地域健康増進＞

地域の健康維持は医療費の抑制につながり、社会的コストの削減にも寄与します。健診受診率の向上や啓発活動を通じて、地域社会に貢献していきます。

## 【まとめ】

日本人の死亡原因の6割以上はがん、心臓病、脳卒中です。毎年健康診断を受けることで、がん、心臓病、脳卒中などの重大な疾患を早期に発見し、適切な治療を受けることができます。健康維持のために、ぜひ小牧市民病院健診センターをご利用ください。





当院では、意見箱を設置し、来院者の方からのご意見、ご要望に対してできる限りお応えできるよう努めています。ここでは、お寄せいただいたご意見、ご要望の一部を紹介させていただきます。

## 《いただいたご意見》

高齢の母のつきそいで定期的に通院しています。長時間になることもあり、オムツを替えたいのですが、どこで替えたらいいかわかりません。



## 《ご意見に対するお答え》

この度は、貴重なご意見をいただきありがとうございます。

診療棟1階東出入口付近、診療棟2階Kブロック採尿室および診療棟3階カフェ・ド・クリエ前にある「みんなのトイレ」に収納式多目的シート（ベッド）が設置されております。オムツの交換を行う際には是非ご利用ください。

診療棟1階



診療棟2階



診療棟3階



## 市民病院案内図

病院ホームページ  
交通アクセス



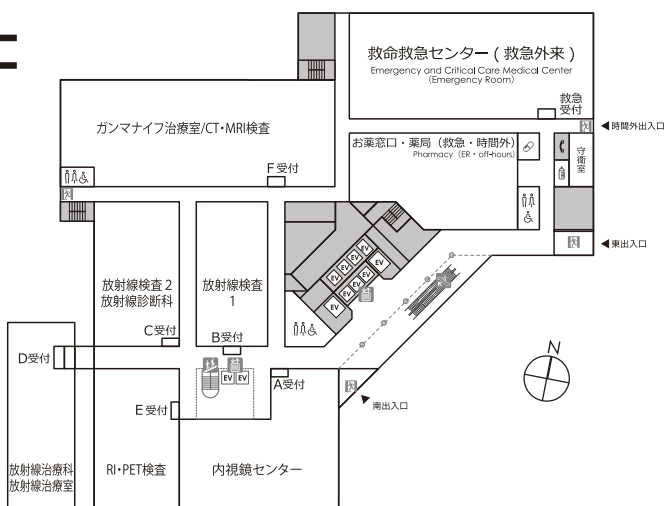
### ■有料駐車場料金

1時間まで無料  
1時間を超え8時間まで100円  
8時間を超え24時間まで1,000円  
以降24時間を超えるまでごとに1,000円加算

外来患者用駐車場

## 外来案内

1F



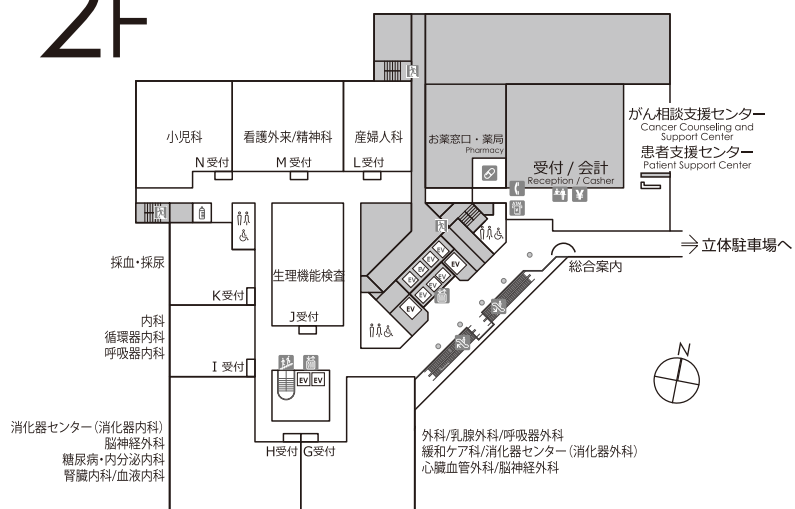
〈診療受付時間〉  
午前8時30分～午前11時30分

〈診療時間〉  
午前9時～午後5時

〈休診日〉  
土曜・日曜・祝日・年末年始

※休診日でも急患の方は、  
救命救急センターで随時診療

2F



3F

